

## 山形紅花染織【米沢織物工業協同組合】

江戸時代隆盛を誇った山形の紅花は、当時全国生産の半数以上を占め紅花の山形の名声を内外に知らしめ、その地位を不動のものとなりました。山形の紅花は品質の高さに定評があり、特に色素の含有量が高いため他産地に比べて約3倍あることから「紅一匁金一匁」と言われ、高い値で取引されていた歴史経緯があり、品質の良さは今日まで引き継がれています。また、俳人松尾芭蕉は山形を訪れた際、「眉掃きを佛にして紅粉の花」の名句を残したことでも、山形の紅花は全国に知られることになりました。

その後、紅花染めは化学染料におされ、山形から染色技法も途絶えるほどに衰退しましたが、昭和40年に入ってから、自然の色に憧れた山形の人々の手により紅花染色研究開発が進み、江戸時代の隆盛期から約一世紀の時を経て見事に蘇り、その艶のある赤色に触発され、再び紅花染織ブームが巻き起こり、紅花染織商品の販売に結び付きました。

3年前、山形県内の米沢を中心とし長井市、白鷹町の織元と産地卸商がタイアップして「山形紅花染織同人協議会」が結成されました。染織会員6社、販売協力会員2社にて構成されています。

協議会は将来「山形紅花染」が「地域ブランド」に認定されるための準備を行っており、地域資源である紅花を最大限に活用し、会員の技術、技法を活かした新たな紅花染織商品の開発を行い、産地の活性化に繋げたいと考えています。

また、トレーサビリティが叫ばれる昨今、協議会では、染織と販売に関する規約を設け、原料表示や製品に至るまで製造業者名などの履歴を明記し、



紅花染のきものと帯

小売価格も設定した中で表示を実施。また昨年新たなデザイン製作を行い、実際消費者の方へ販売する小売店へ染織者、産地卸業者自らが出向いてプレゼンテーションを行いました。

その結果、商品の70%近くが販売に結びつくという予想以上の好結果が生まれました。これは、川上と川下の連携によるコラボレーションから生まれたものであり、今後の販売システムづくりに参考になると考えているところです。

一方、商品開発の原点を考えると、その基本は原料にあるとして会員メンバー自ら率先して生産農家に赴き、紅花生産の最も苦となる花の手摘み作業を手伝い、作付けを行うなど「質の高い原料から更に輝きを増す商品が生まれる」ことを合い言葉に農工商が連携したものづくりをしています。

将来は現在危惧されている日本の養蚕にも目を配り、良質の国産糸及び県産糸に県産紅花染織を施し



紅花で染めた絹糸

た純山形県産のこだわりの商品として付加価値を加えた商品開発を目指し、後継者育成にも力を注ぎながら、山形紅花染織を未来永劫、伝承してまいります。

### 〇問い合わせ先

米沢織物工業協同組合（山木）  
住 所：山形県米沢市門東町1-1-5  
電 話：0238-23-3525

### 《山形紅花染織同人協議会会員》

#### 〈染 織〉

米 沢：野々花染工房(有)  
斎英織物(株)  
株新 田  
白根沢(資)

長 井：(株)斎藤織物  
白 鷹：小松織物工房

#### 〈卸販売〉

米 沢：(株)布四季庵ヨネオリ  
株山 利